

2020年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	147200580	事業の開始年月日	平成18年2月1日
		指定年月日	平成18年2月1日
法人名	有限会社 そふいあ		
事業所名	グループホーム宮川		
所在地	(238-0231) 神奈川県三浦市宮川町17-19		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	令和2年8月14日	評価結果 市町村受理日	令和2年12月23日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>「GH宮川」での基本原則</p> <p>①介護スタッフは、入居者に対して、たえず家族同様に接する。 (単なる福祉施設型の介護ではダメ。)</p> <p>②介護スタッフは、入居者の生い立ち・考え方・嗜好・日々の想いや変化に耳を傾ける。</p> <p>③介護スタッフは、入居者一人一人の生活・リハビリ目標を日々、把握し行動する。</p> <p>④介護スタッフ 可能なかぎり入居者と一緒に外出(散歩・買物等)するよう行動する。</p> <p>⑤介護スタッフは、可能なかぎり入居者と一緒に家事労働(調理補助・整理補助等)するよう行動する。</p> <p>⑥介護スタッフは、プロとしての介護技術(メンタル部分もあわせて)を日々、研鑽する。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和2年9月15日	評価機関 評価決定日	令和2年11月5日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は京急「三崎口」駅または「三浦海岸」駅から京急バス乗車、「栄町」または「宮川町」バス停下車徒歩です。建物の1階と2階で1ユニットのグループホームとなっており、建物の周囲は家が点在し竹林などの豊かな緑に囲まれています。</p> <p><優れている点></p> <p>設立以来の6項目からなる基本原則を運営方針としており、常に「入居者に笑顔になってもらう」ことを念頭に置き、職員に周知徹底するとともに、これらの方針の実現のため現場の声を重視しています。職員同士の話し合いや職員会議での提案など、管理者は職員の自発的な発想を尊重し常にモチベーションを高く維持するよう配慮しています。</p> <p>ほとんどの入居者が終の棲家と考えており、終末期には家族と一緒に時間を過ごし、看取りの際は、他の入居者や近所の知人も参加する「お別れの会」を行い、その後も「宮川家族たより」を送り家族との信頼関係を築いています。</p> <p><工夫点></p> <p>介護日誌のほかに、介護特記連絡事項や事務連絡事項報告書を作成し、全職員の閲覧サインを得て情報の共有化を図っています。さらに標準様式の介護計画のほかに8項目からなる、現状の把握と具体的な対応方針を併記したケアプランを作成しており、家族などにも理解し易いように工夫を凝らしています。</p> <p>食事は入居者の最大の楽しみです。入居者の希望を取り入れて献立を作り、地産地消に配慮した地元の食材で、三食とも職員が交代で手作りしています。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム宮川
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	住み慣れた家・地域での暮らしをそのまま延長する、家庭的な介護を実践。介護職員は入所者に対し①常に家族同様に接する。②生い立ち・考え方・嗜好・日々の思いに耳を傾ける。③一人ひとりの生活・リハビリ目標を随時、把握し行動する。④可能な限り一緒に外出（散歩・買い物・ドライブ）をするよう行動する。⑤一緒に家事労働（調理・整頓）するよう行動する。⑥プロとして介護技術（メンタル部分も併せて）を日々、研鑽している。	6項目の基本原則の根底の考え方は、「入居者に笑顔になってもらう」ことであり、この実現のため職員は、入居者一人ひとりの生活行動を理解し気持ちに寄り添うことに努力しています。管理者は職員の自発的な発想を尊重し現場力の維持向上に努力しています。基本原則は方針として玄関に掲げ明示しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	管理者・職員とも地元育ちで地区内にも友人がおり、気軽に声をかけられる関係にある。また、地区の人々が集えるよう、区長会等にもお願いしている。	入居者、職員ともに地元の出身であり、地域との関わりを大切にしています。町内会（隣組）に加入しており、回覧板も回ってきます。夏祭りには神輿や獅子舞、太鼓演技を見に行きます。お話しボランティアを受け入れたり、近隣の子供たちが遊びに来ます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	宮川区長会隣組に加入しており、地域活動参加に努めている。お祭りなどの地域行事への参加。運営推進会議等で認知症に関する知識や経験を伝えている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域担当の民生委員、利用者家族等の参加のもと、サービスの実際、評価への取組状況等についての意見交換を行ない、サービスの向上を図っている。	通常は年6回、日曜日の午前中に開催しています。民生委員、法人代表、家族代表、職員が参加し、市の担当課にも声を掛けています。議題は、事業所の介護運営状況、イベントの予定、特に今年は感染症対策について意見交換をしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村への提出物等においても、メールの転送や郵送は出来るだけ避け、直接担当者に手渡しをし、会話の機会を作っている。	入居届けや運営推進会議の議事録の報告など機会を捉えて直接出向き、意見交換、情報交換をしています。市の要請による傾聴ボランティアの研修者を毎年数名受け入れたり、保健所主催の出前講座がある場合は開催を依頼して入居者も参加しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	今までも開設以降、身体拘束は行なった事はない。今年度より身体拘束にならない為の対策に向けて取り組み始めている。	運営推進会議の開催日に身体拘束防止の委員会を開催し、スピーチロックなど未然防止のための諸方策を話し合っています。日中は玄関は施錠せず、入居者は自由に出入りできます。外出する入居者には、職員がそれとなく付き添い安全を確保しています。指針は玄関の壁に掲示しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を解消できるよう、わかり易く説明を行い理解・納得をしてもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者は日々の生活の中で、家族は面会・運営推進会議・電話での利用者の近況報告等の機会に聞いた思いや要望等を職員会議等で集約ししょくいんに伝え生活に反映させている。	入居者の意向は、日々の生活の中で職員が注意深く汲み取っています。家族の意向は、運営推進会議の席上や面会に訪問された際に部屋で湯茶の接待をしながらいろいろな話しをしています。電話でのやり取りや「宮川家族たより」でも近況を発信しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会(2ヶ月に1回の定期スタッフ会議)等の機会を設け、反映させている	6項目の原則実現のため、職員の意向把握は重要です。2ヶ月に1回開催される職員会議では法人代表も出席し全員が発言し、入居者の体調を含めた状況把握を再確認し共有するとともに、施設・設備の改善に至るまで、実現できるものを具体的に検討しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	代表者は、管理者・職員の能力を把握するよう職員会議等の機会に努め、法人内外の研修または、日々の業務内にてOJTを行うことでトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前より本人とコミュニケーションを取る中で傾聴し思いを聞いたうえで本人のペースに合わせながら慣れていただくこと・安心して送れる生活を作っていくようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	見学の段階から現在の問題を傾聴し、入居後のイメージを共に作り上げながら安心して入居していただけるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	まずは、GH宮川に望む事を把握し本人が出来る事・したい事に多く気づくようにしている。社会資源を含めたサービスが出来ないかについても家族含め相談しながらケアプラン作成をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員と利用者という関係ではなくそこで一緒に生活する仲間として日々笑ったり・泣いたり・怒ったりと共感しあう関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人と家族が良好な関係を継続できるだけでなく、さらに良い関係性が構築できるようサポートする事で両者の気持ちに添った関わりを持っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居したとしても友人との連絡や面会、また自宅へ行くなど出来る限り対応している。	感染症対策により訪問受け入れは困難な状況がありますが、通常は、知人の事前の訪問連絡があれば歓迎受け入れ、家族と食事などに出掛けることを支援しています。事業所の車での送迎も実施しています。電話の取次ぎや手紙のやり取りの支援もしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個々の個性を把握したうえで孤立しないよう仲間作り・話題作りを職員がサポートする事で、お互いと一緒に生活する仲間と考えてもらえるよう日々介護を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	当該GHでは看取り対応でありこれまでに中途退去したケースは皆無である。なお「家族たより」は亡くなられた家族の方に、かかさず郵送している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。墓参り・買物・演劇鑑賞・美容院など要求は個々だが可能な限り対応しているし、他の親族・知人等の入居相談も個々に対応している。	入居者一人ひとりの個性やし好などを職員全員が理解するよう努め、過去の記録だけに頼らず、「今日の入居者の様子」に合わせて「今日の介護を工夫する」という柔軟な取り組みを職員同士話し合いながら、時には試行錯誤しながら実施しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握と本人の要求が介護サービスの原点だと肝に銘じている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活を見ていく中で個々の変化を見逃さずにその都度、対応している。また、職員会議等で短期的・長期的な視点での対応も話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人と関わる方々とその都度話し合い既存の介護ではなくあくまでも生活をどう楽しく暮らせるかを考えた介護計画を作成している。	毎日、個人別の介護特記連絡事項などを作成し、全員が回覧して総合的な状況把握を行っています。さらに定期的に職員の意見交換を行うことにより、ケアプランの見直しが必要な場合は、家族や医師の意見も反映させています。ケアプランは独自の様式です。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を介護記録簿及び連絡簿に記入し、情報をリアルタイムで共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	常に変化は起きるものと考え、機械的な対応ではなくニーズに合わせた対応を行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議や近所の方との関わりの中で地域資源を把握し個々に合った支援を行なっている。例えば、夏祭りに行き買い食いや神輿の見学等		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	隔週の医師による往診と毎週の看護師による訪問看護を実施し入居者の健康管理に務めている。なお、突発的な病気・症状については其々の専門医療機関に家族との連絡をとりつつ適宜実施している。訪問歯科医は月1回で行なっている。	入居時に説明同意の上、事業所提携医が全員を診ています。往診は月2回、看護師が毎週訪問する医療連携体制です。メンタルの専門医の往診もあります。歯科医も月2回の往診です。転倒などの急変時には、管理者が家族に電話で報告をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員は日々の業務の中で利用者の変化を捉え、職員間だけでなく訪問看護師とも情報を共有し問題を解決している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は必要な情報だけでなく入院準備も行い、病院関係者と関係を構築している。また、スムーズに退院が行なえるように入院時から受入れ体制について情報共有を病院側と行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取り時期に入ったと判断した場合は、家族等と医師を交えて話し合い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、支援に取り組んでいる	重度化の時は医師の診断に基づき「看取りに関する指針」に沿って家族と話し合い同意書を結びます。事業所は家族や他の入居者と共に、家族のように介護と見守りを行っています。緊急時管理者不在の時、職員は「緊急事態発生時の対応マニュアル」に従い対応します。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	利用者の急変や事故発生時に備えて、緊急マニュアルを全ての職員に徹底するとともに応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災や地震等の災害時に、利用者が避難できるように定期的に消防・防災訓練を実施するとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練は年2回行っています。集合場所を玄関前とし、概ね5～6分で全員が退避集合しています。夜間は近くの職員数名が駆け付けます。災害備蓄の食糧は、水及び主食のローリングストックを中心に1週間程度を準備しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個性を大切にし本人が気持ちよく過ごせるよう声をかけている。	生活の歴史と個性が異なる一人ひとりが、共同生活の良さを楽しめるような雰囲気作りに気を配っています。料理や得意な作業、趣味を引き出し、それを皆が認めることで充実感を持ってもらっています。相手により状況により言葉や話し方に心配りをしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常の会話やふと漏らす言葉を聞くことで思いや希望を実現できるようお手伝いをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の都合ではなく、利用者の都合に合わせて対応しているので同じ毎日は繰り返していない。一日いちにち楽しく過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。職員による無料の散髪等も行なっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	「何とんでも食事が一番の楽しみ」と口を揃えて利用者は断言する。一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者の最大の楽しみの食事に力を入れています。一汁三菜に果物が基本の中で、入居者の希望を入れ職員が得意料理で美味しさを競っています。食材は地元からの仕入れです。おやつも全て手作りです。今年の敬老会は職員家族の握り寿司の実演が楽しみとなっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	その人なりの最高の体調を維持するために、食事量・栄養バランス・水分量が一日を通じて確保できるよう、食事・おやつ作りをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアだけでなく歯科往診時に口腔内を確認してもらい、口腔内が清潔に保たれているか気を付けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた排泄介助を行なっている。	バイタル表に記録した排泄データと、個々の特性とその日その時の様子を観察しつつ、自主性を重んじながら介助をしています。便の様子を見ながら、食べ物、飲み物で対応したり、便秘対応剤の量や使用の可否を判断しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	個々の希望を可能な限り受け止め対応している。入浴を楽しむ事で本人が穏やかに過ごす機会と捉えている。	週に2回午前中に入るのが基本です。全て一人で入浴出来る人もいますが、椅子型昇降機で入る人もいます。風呂上りには全員に水虫薬を塗ります。医師の指示で保湿剤を塗布する場合があります。風呂嫌いの場合「お風呂」という言葉を使わずに誘導しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼夜逆転や不眠等が起きないように日中は散歩やドライブまたはおしゃべりやビデオ鑑賞・運動等を取り入れ夜にゆっくり休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬の変更時には全職員に薬の目的・副作用・用量について説明している。また、認知症薬や向精神薬については様子観察を行い、本人に合う合わない等の細かな変化を見ていき適切な対応に務めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	笑い・感動のある一日を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気が良い時の散歩・ドライブ・四季の外出行事や一人一人の要求に対応した外出支援を日常的に行なっている。	以前は東京の同窓会へ出席する人もいましたが、高齢化とコロナ禍で外出が困難です。入居者は外出を喜ぶので、一番人気の現地での料理付き秋のミカン狩りを何とか実現したいと検討中です。日頃は近場を散歩したり、玄関横のベンチで外気浴をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人が希望する時は職員がお手伝いしながら行ってもらっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間には季節の花や色紙等を置いている。季節に応じて温度管理も行なっている。また、トイレは清潔に保つことで気持ちよく使用してもらうよう気をつけている。	共用空間の居間を、重要な社交の場と位置付けています。ただし一斉遊戯は基本的には行っていません。テレビを見る人、洗濯物を畳む人、食材のもやしのひげ取りや絹さややフキの筋取りをする人、それぞれが自分の好きなことや熱中出来ることをしています。毎日消毒剤で床・手摺などを拭いています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間には椅子やソファを各所に配置し、その時の本人の気分等に合った居場所作りをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時やその後も本人や家族と相談しながら居室の整理や模様替え等を行なっている。	各部屋に大きな窓があります。部屋担当が衣替えの時期や動線の安全をチェックしています。危険性が無い限り、部屋の使い方は入居者の自由に任せています。毎日部屋掃除と消毒を行っています。布団は週に1回干し、カバー、シーツ類も毎週洗濯しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個々の能力を把握したうえで生活しやすいよう物の配置変更や職員の声かけや見守りにて安全に生活できるよう工夫している。		

2020年度

目標達成計画

事業所名 グループホーム宮川

作成日：令和 2年12月18日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	8	コロナ禍での感染症対策等の徹底。感染者が出ない取り組み。出た場合の対応等が細かくマニュアル化や指針化が出来ていない。直接会わなくても面会が可能となる設備が整っていない。	①毎日の各居室・生活空間の感染予防。②感染者を出さない取り組み。③感染者が出た場合の取り組み。④直接面会の場合における指針作成。⑤ZOOM等の活用による遠隔面会の実施。	①午前各居室・夕方生活空間のハイター希釈液を使用した消毒作業の毎日の実施。②職員の毎日の健康管理。職員以外の医療関係者・業者の立ち入りの管理等を行う。③市・保健所への迅速な報告。PCR検査等に必要な利用者・職員の医療保険等の情報を	12ヶ月
2				一括にまとめた一覧表の作成。随時最新の情報に更新行う。④直接面会行う場合の指針作成。状況変化においての随意時指針の変更を行う。⑤県の補助金等を活用しインターネット回線の導入。通信機器の購入を行う。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月